

平成29年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター
熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

平成29年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター
熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



もくじ

1 はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構理事長あいさつ 1
2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座特任教授あいさつ 2
3. スタッフ一覧 3

2 熊本県地域医療支援機構

(熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター)

1. 活動概要 4
2. 年間活動実績 4
3. 活動報告
 - I. 県内における医師不足の状況などの把握・分析 5
 - II. 医師不足医療機関の支援 7
 - III. 医師が循環して勤務できるシステムの構築 7
 - IV. 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援 9
 - V. 医師に関する求人・求職などの情報発信と相談対応 11
 - VI. 県内医療関係機関との協力関係の構築 14
 - VII. 熊本県地域医療支援機構講演会 15
 - VIII. 女性医師キャリア支援 19
4. そのほか 27

3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要 29
2. 年間活動実績 29
3. 活動報告
 - I. 地域医療支援（診療支援）
 - II. 調査・研究 30
 - III. 教育活動 31
 - 卒前教育（カリキュラム内教育） 31
 - 卒後教育（初期臨床研修・専門医研修） 46
 - IV. 指導医養成 50
 - V. 講演会 52
4. そのほか 53

4 玉名教育拠点

1. 活動概要 54
2. 年間活動実績 54
3. 活動報告
 - I. 教育活動 55
 - II. 診療 57
 - III. 年間診療報告 57



5 熊本県医師修学資金貸与制度

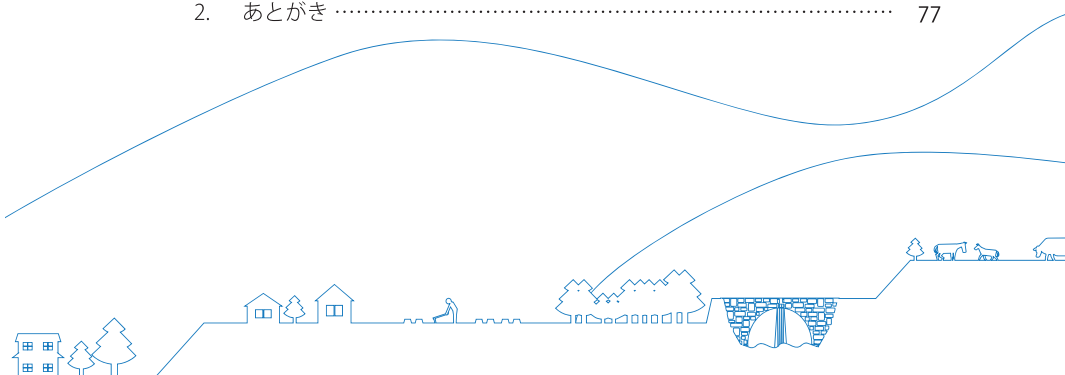
1. 地域医療ゼミ	
I. 概要	58
II. 活動報告	58
2. 平成29年度夏季学生地域医療特別実習	
I. 概要	62
II. 実習参加者	62
III. 実習の大まかな流れ	62
IV. 3日間の日程	63
3. 平成29年度卒業生	64

6 業績

1. 熊本県地域医療支援機構	67
2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座	68

7 おわりに

1. スタッフから一言	72
2. あとがき	77



はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構 理事長あいさつ



熊本県地域医療支援機構 理事長
熊本大学医学部附属病院 病院長

水田 博志

皆様方には、平素より熊本県地域医療支援機構ならびに地域医療・総合診療実践学寄附講座の取り組みに多大なご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。この度、平成29年度の活動について報告書を作成致しましたので、ご一読いただければ幸いです。

ご案内の通り、熊本県地域医療支援機構は県内における医師の地域偏在を解消し、地域に必要な医療を確保することを目的に平成25年12月に設置され、平成30年で5年目となります。この間、当機構では、地域医療・総合診療実践学寄附講座あるいはその前身である地域医療システム学寄附講座と一体となって、地域医療に従事する医師のキャリア形成支援システムと優れた医療人を育成する熊本型医師地域循環型システムの構築に向けて様々な取り組みを行ってまいりました。

将来、医師が不足する地域で医療に従事しようとする学生に修学資金を貸与する熊本県医師修学資金貸与制度は平成21年にスタートし、29年度までに貸与された学生は65人となっています。貸与学生には、地域医療に関する教育を実施するとともに、当初の目的が達成できるように進路相談支援等を通してサポートを行い、これまで1人の脱落もなく順調に進んできています。また貸与医師のモデルキャリアパスを作成し、地域医療への従事と新専門医制度での専門医取得が両立できる制度設計を行っています。既に臨床研修を修了した医師が3人誕生し、それに続く研修医も13人となり、今後、本制度のもとで地域医療に従事する医師が着実に増えていくことを期待しています。

一方、地域で医師を育てる熊本型医師地域循環型システムは、平成27年度に公立玉名中央病院に設置した地域医療実践教育拠点で具現化しましたが、本拠点で受け入れる研修医、専攻医の数は年々増加しており、その成果が表れつつあります。本年度からは常駐の教員が1名増員され、更に充実が図られています。

このように、当機構が設置されて以来、地域医療・総合診療実践学寄附講座とともに一歩ずつ着実に活動を行ってきたところですが、本年度は、都市圏の医学部に在籍する熊本出身の学生に対して地域医療を体験する機会の提供や、育児等で家庭に入った女性医師の復職を支援するためのメンター制度やお留守番医師制度の普及、また例年実施してきた夏季学生地域医療特別実習の内容の見直しなど、新たな活動も開始しています。

今後も引き続き、熊本県、市町村、医師会、連携病院など関係機関との連携を強化しながら、熊本の地域医療体制のさらなる充実をめざして努力をしてまいりますので、皆様方のなご一層のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

はじめに

はじめに

2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任教授あいさつ



熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任教授
熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター センター長

松井 邦彦










いつも皆様方には、熊本県地域医療支援機構/地域医療支援センター及び地域医療・総合診療実践学寄附講座へご支援をいただき、ありがとうございます。平成29年度の活動報告書をお届けします。私たちは熊本県における地域医療に関した様々な問題の解決を目指し活動を行ってきましたが、早いもので4年間が経ちました。

私たちの重要な活動の一つに、毎年行っている熊本県医師修学資金貸与の熊本大学生と県出身の自治医科大生を主な対象とした夏季地域医療特別実習があります。本年度は天草地域医療センターを中心に、天草地域で行うことが出来ました。地元为天草郡市医師会や天草市のご協力を得て、例年にも増して非常に充実した内容の実習とすることができました。この場をお借りして、ご協力をいただいた皆様方にお礼申し上げます。これまでの夏季実習については、年度末の報告書の中に含めていました。しかし本年度は、夏季実習の報告は別版として先に作成しました。夏季実習が含まれないと、年度末の報告書は、内容の乏しい薄いものになるのではないかと心配しました。しかしそれは、全くの杞憂でした。仲間が増え、各人が様々な活動を行ってきたこの一年間の成果を、ご覧いただければと存じます。

ページをめくると、この一年間の様々な出来事が思い出されます。私たちの活動による成果が、少しずつ現れてきたのではと思う一方で、皆様のご期待に添うまでに達していないことも承知しています。私たち、熊本県地域医療支援機構/地域医療支援センター及び地域医療・総合診療実践学寄附講座は、熊本県からの寄附により設置されていますが、来年度は寄附講座として5年目の最終年度であり、一旦の区切りを迎えることとなります。来年度へ向けて、皆さま、どうぞ私たちに、これまでと変わらぬご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

3. スタッフ一覧

◆ 熊本県地域医療支援機構（熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター）

	松井 邦彦 特任教授（センター長） 総合診療科		坂田 正充 地域医療支援コーディネーター
	谷口 純一 特任准教授（副センター長） 総合診療科		柚原 敬三 地域医療支援コーディネーター
	古賀 義規 客員研究員 （御所浦診療所所長）		高塚 貴子 女性医師復職支援コーディネーター
	後藤 理英子 特任助教 糖尿病・代謝内分泌内科		中川 実咲 事務補佐員
			横手 友紀子 事務補佐員

◆ 熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

	松井 邦彦 特任教授 総合診療科	◆ 玉名教育拠点	
	高柳 宏史 特任助教 総合診療科		田宮 貞宏 特任准教授 総合診療科
	佐土原 道人 特任助教 総合診療科		小山 耕太 特任助教 総合診療科
	前田 幸佑 特任助教 総合診療科		楯 直見 後期研修医3年目 総合診療科
	香田 将英 医員（大学院生）		田中 顕道 後期研修医2年目 総合診療科
	久保 清美 事務補佐員		中村 孝典 後期研修医2年目 総合診療科
	山並 美緒 事務補佐員		松田 圭史 後期研修医1年目 総合診療科

熊本県地域医療支援機構

（熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター）

1. 活動概要

熊本県地域医療支援機構では、熊本県と、熊本県から機構業務の一部を委託された熊本大学医学部附属病院が協力して機構の運営を行っています。当機構では県内における医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に医師不足医療機関の医師確保の支援等を行っています。

今年度は第7次熊本県保健医療計画の策定年であり、その基礎資料となる全医療機関の調査を実施し、第7次医療計画の策定に協力するとともに新たな教育拠点について検討を行いました。

また、熊本県医師修学資金の貸与者は65人に達し、既に臨床研修を修了した医師が3人、それに続く研修医も13人となりました。そのため、地域医療への従事と新専門医制度での専門医取得が両立できるよう、面談やキャリア支援調整会議等で支援の充実を図りました。

更に地域医療支援機構講演会では、天草地域との連携を図る企画の実施や県内の地域包括ケアの取り組みの共有を図る企画など、地域医療機関及び医療関係者との連携を強めるよう努めました。

女性医師のキャリア支援としては、お留守番医師制度、メンター制度、マタニティ白衣貸与制度を新たに開始するとともに、キャリア支援セミナー開催など積極的な活動を行いました。

【主な取り組み】

- ① 県内における医師不足の状況等の把握・分析
- ② 医師不足医療機関の支援
- ③ 都市部と地域の医療機関が連携し、医師が循環して勤務できるシステムの構築
- ④ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援
- ⑤ 医師に関する求人・求職などの情報発信と相談対応
- ⑥ 県内医療関係機関との協力関係の構築
- ⑦ 熊本県地域医療支援機構講演会
- ⑧ 女性医師キャリア支援

2. 年間活動実績

月	日	行事
	7	病児保育室（Mimi）開所式
4	12	地域医療支援機構担当者連絡会
	19	地域医療支援機構担当者連絡会
5	10	地域医療支援機構担当者連絡会
	13-14	日本プライマリ・ケア学会ブース出展
	24	地域医療支援機構担当者連絡会
	29	医師修学資金貸与医師面談
	30	医師修学資金貸与医師面談
	31	メンター連絡会議
6	1	医師修学資金貸与医師面談
	6	医師修学資金貸与医師面談
	7	地域医療支援機構担当者連絡会
	12	キャリア支援セミナー
	23	学生面談（6年）
	27	学生面談（6年）
7	12	地域医療支援機構担当者連絡会
	28	地域医療支援機構講演会
8	18	オープンキャンパス
9	13	地域医療支援機構担当者連絡会
	23	メンター連絡会議
	28	地域医療研修連絡調整部会
10	18	地域医療支援機構担当者連絡会
11	10	育児・介護支援情報会
	14	医学生・研修医をサポートする会セミナー
12	12	クローバーセミナー
	13	地域医療支援機構担当者連絡会
1	17	地域医療支援機構担当者連絡会
	20	メンター連絡会議
	26	キャリア支援調整会議
	27	地域医療支援機構講演会
2	14	地域医療支援機構担当者連絡会
	23	地域医療支援機構担当者連絡会
3	5	地域医療研修連絡調整部会（書面会議）
	6	女性医師キャリア支援センター運営協議会
	14	地域医療支援機構担当者連絡会
	19	地域医療支援機構理事会 地域医療支援機構評議員会

3.活動報告

❖ 県内における医師不足の状況などの把握・分析

◆ 第7次熊本県保健医療計画の策定に向けた県内全医療機関調査 (へき地医療および医師・歯科医師確保に関する医療機関調査)

熊本県の第7次熊本県保健医療計画（2018年4月～2023年3月）の策定に伴い、同計画並びに今後のへき地医療や地域医療に携わる医師・歯科医師などの確保に関する施策の検討のため、また、各医療機関における医師や患者数の状況を把握するため、次の通り県からの委託を受け、熊本県内全医療機関へアンケート調査を実施しました。

- (1) 調査の目的
第7次保健医療計画（H30年度～H35年度）をはじめ、今後のへき地医療及び医師・歯科医師確保に関する施策等を検討するための基礎データを得ることを目的とする。
- (2) 調査の対象
県内の医療施設2,525施設（病院：213施設、診療所1,465施設、歯科診療所847）※平成29年4月1日現在
- (3) 調査の項目
 - ①現在の医師数（常勤医師数及び非常勤医師数（常勤換算）診療科毎・男女別）
 - ②求人医師数（診療科毎）
 - ③平成35年度における必要医師数（診療科毎）
 - ④常勤医師の年齢（5歳刻み）
 - ⑤1日平均外来患者数（診療科毎・H28年度）※診療科の区分が不可の場合は主たる科
 - ⑥1日平均入院患者数（診療科毎・H28年度）※診療科の区分が不可の場合は主たる科
 - ⑦熊本市以外の医療機関への診療支援について
 - ⑧後継者について※診療所及び歯科診療所のみ
 - ⑨その他（今後のへき地医療及び医師・歯科医師確保に関する取組みについて）
- (4) 調査の時点
平成29年7月1日現在
- (5) 調査の方法
熊本県から熊本県地域医療支援機構の運営委託を受けた熊本大学医学部附属病院が、県内医療施設に調査を実施し、同附属病院で取りまとめ、熊本県に提出する。
調査のアンケートを送った2525施設中1326施設（54%）から回答をいただきました。
ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

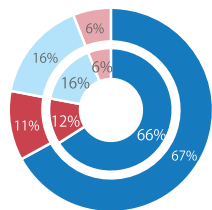
◆ 熊本県医師修学資金貸与条例に規定する知事が指定する病院等における医師不足の状況等に関する調査・分析

第7次熊本県保健医療計画に伴う全医療機関調査の中から知事指定病院を抽出し、医師の不足状況を調査分析しました。その結果、年齢構成や常勤・非常勤の割合は全県と大きな差はないこと、また将来的には外科医の需要が多いことなどが分かりました。

➤ 調査結果

1. 常勤医師・非常勤医師の男女割合 (外円：全病院 内円：知事指定病院)

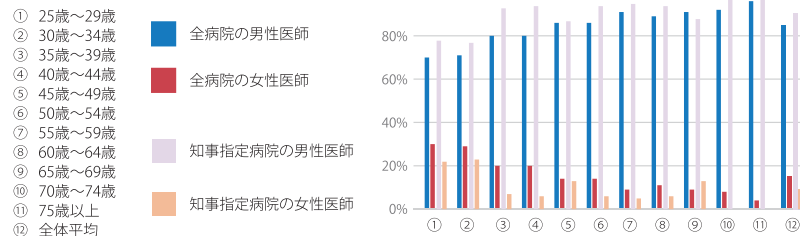
全病院と知事指定病院に、常勤医師・非常勤医師の男女割合の大きな差はないことが分かる。常勤医師と非常勤医師と比較すると圧倒的に常勤医師の方が割合が高いことが分かる。



熊本県地域医療支援機構

熊本県地域医療支援機構

2. 男性医師・女性医師の年代別割合



全病院の男性医師は35歳以降の割合がそれぞれ80%を超えており、女性医師の割合は多少の増減はあるが、徐々に下降していくのが分かる。知事指定病院の女性医師は70代以降は0%であることが分かる。全病院と知事指定病院の数値の差が一番小さいのは⑤45歳～49歳であった。

3. 求人医師数と必要医師数

診療科別現在の求人医師数（上位10位まで）

2023年（5年後）時点において必要と見込まれる診療科別医師数（上位10位まで）

	全病院 市外	全病院 市内	全病院	知事指定 病院のみ	全病院 市外	全病院 市内	全病院	知事指定 病院のみ
1	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	外科
2	整形外科	整形外科	整形外科	脳神経外科	精神科	精神科	精神科	整形外科
3	精神科	精神科	精神科	総合診療科	整形外科	整形外科	整形外科	内科
4	総合診療科	総合診療科	循環器内科	外科	外科	消化器内科 (胃腸内科)	消化器内科 (胃腸内科)	消化器内科 (胃腸内科)
5	消化器内科 (胃腸内科)	消化器内科 (胃腸内科)	総合診療科	小児科	総合診療科	眼科	外科	循環器内科
6	外科	外科	消化器内科 (胃腸内科)	呼吸器内科	消化器内科 (胃腸内科)	循環器内科	循環器内科	総合診療科
7	循環器内科	循環器内科	呼吸器内科	循環器内科	循環器内科	外科	総合診療科	小児科
8	呼吸器内科	呼吸器内科	外科	放射線科	小児科	泌尿器科	眼科	麻酔科
9	小児科	小児科	小児科	小児外科	泌尿器科	小児科	小児科	呼吸器内科
10	麻酔科	麻酔科	神経内科	消化器内科 (胃腸内科)	耳鼻咽喉科	呼吸器内科	泌尿器科	産婦人科

全病院の診療科別現在の求人医師数は市内・市外ともに変わりはないが、5年後時点において必要と見込まれる診療科別医師数については上位3位より下は大きく変化していることが分かる。また、知事指定病院については、順位が大きく変わり、1位が内科から外科へと変わったことが特徴的である。

◆ 県内医療機関における初期臨床研修医に関する調査・分析

今後のマッチング率維持を図るとともに将来の医師確保に繋げることを目的に、臨床医学教育研究センター、総合臨床研修センター、基幹型臨床研修病院協議会に対し働きかけ、平成28年度のマッチング率全国1位の理由等を調査分析してもらいました。

その結果、臨床研修基幹病院等を選択した理由としては、「見学・実習をして好感を持ったから」「出身地に近いから」「当該病院に魅力を感じたから」「研修プログラムに魅力を感じたから」などが大きな要素であることが分かりました。また、震災の影響については、「震災があったため県内での研修にした」と回答した研修医は全体の1割で、「震災がなくても県内で研修したいと思っていた」との回答が全体の6割以上を占めました。

❖ 医師不足医療機関の支援

◆ 診療・診療支援

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、学外においては、各教員が、複数の地域の医療施設にて、下表のとおり非常勤での診療支援活動を行いました。

➢ 大学病院総合診療外来

月	火	水	木	金
谷口	(松井) H29.4~H30.1		谷口	(松井)

➢ 学外診療支援

松井	H29.4~H30.3 公立玉名中央病院 (週1回) H30.2~H30.3 牛深市民病院 (週1回)
谷口	H29.4~H30.3 国保水俣市立総合医療センター (週1回)

◆ 熊本県医師修学資金貸与医師の配置調整システムの充実

- キャリア支援調整の年間スケジュールを作成し、医師修学資金貸与医師キャリア支援調整会議において説明し了承されました。
- 初期臨床研修修了者用の勤務先等希望調書を作成し、調整会議の前に調書をもとに面接を行い、円滑な配置調整に努めました。
- 医師修学資金貸与医師の義務年限の達成状況をチェックすることが出来るよう、貸与医師毎の台帳を整備しました。
- 卒後3年目の修学資金貸与医師(6名)が所属する専門研修プログラム責任者に修学資金貸与制度上の義務と今後の勤務ローテーションについて説明し、配置調整への協力を依頼しました。

❖ 医師が循環して勤務できるシステムの構築

◆ 熊本市内と地域の医療機関が連携して、医師が都市部と地域を循環して勤務出来るシステムの構築に向けた取組状況

1. 第7次熊本県保健医療計画策定への参画

地域医療支援機構理事の松井邦彦熊本大学医学部附属病院域医療支援センター長が第7次熊本県保健医療計画策定のための「へき地医療対策に関する協議会」の委員として、7月5日、11月22日、3月7日、同協議会ワーキンググループの座長として7月26日、8月9日、10月11日に開催された会議等に出席しました。その結果、第7次熊本県保健医療計画の中に、システム構築の柱となる教育拠点の拡充について県の支援方針が盛り込まれました。

2. 新たな教育拠点の検討

玉名教育拠点での実績を踏まえ、新たな教育拠点についてどのように整備していくか、必要性、方向性、スケジュール等について検討しました。

【検討内容】

①地域医療実践教育拠点拡充の必要性

■教育対象者の増加

- 大学医学部における地域医療研修の拡大及び義務化
- 臨床研修医の増加(玉名拠点は2年連続フルマッチ)
- 総合診療専門医専攻者の増加(30年開始のプログラム登録者6名)

熊本県地域医療支援機構

熊本県地域医療支援機構

■地域における総合診療専門医への期待

- 医療や介護を地域で一体的に提供する「地域包括ケアシステム」では多種多様な疾患や健康問題への対処が求められるほか、多職種での連携や、予防医学的なアプローチなど、領域を問わない総合診療専門医が必要。
- 高齢化が進む地域では、特に慢性疾患について、複数の疾患の医学的管理を必要とする高齢者が増加しており、総合的に診られる総合診療専門医が必要。

②地域医療実践教育拠点拡充の方向性

A 県内統括型——玉名教育拠点(公立玉名中央病院)

- 大学→玉名に教員派遣・循環
- 玉名で専門医・指導医を養成
- 県内に指導医派遣

B 地域完結型(新たな拠点)

- 大学→拠点に教員派遣・循環
- 拠点で専門医・指導医を養成
- 地域内に派遣

③今後の予定

- 第1期 方針及び課題検討
- 第2期 拠点設置箇所調整
- 第3期 諸手続き実施



● 玉名教育拠点 ● 熊大病院

◆ 遠隔診療・教育支援システム(テレビ会議システム、学習・診療支援オンラインツール等)の構築支援

1. テレビ会議システム

熊本県の総合診療専門医育成支援設備整備事業の計画に基づき、平成29年度は小国公立病院、公立多良木病院、上天草総合病院の3か所にテレビ会議システムを配備するための支援・調整を行いました。



テレビ会議システムを利用した5地点での同時セミナーの様子▲

整備場所

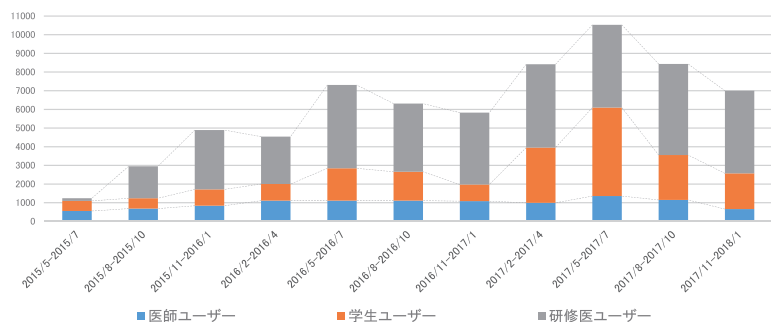
- | | |
|-----------|--|
| H28年度 | <ul style="list-style-type: none"> 御所浦診療所 湯島へき地診療所 そよう病院 |
| H29年度 | <ul style="list-style-type: none"> 小国公立病院 公立多良木病院 上天草病院 |
| H30年度(予定) | <ul style="list-style-type: none"> 河浦病院 阿蘇医療センター 人吉医療センター |

2. 学習・診療支援オンラインツール

平成29年度は、「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供するのためのID/パスワードを医師修学資金貸与学生・医師、自治医科大学学生、総合診療プログラム専攻医等11名に交付し、交付者は累計で139名になりました。

また、特別臨床実習(クリクラ)を受けた73名の学生に実習医療機関での「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供し活用を図りました。

利用状況（2015年3月に導入以来、3ヶ月毎に集計）▼



熊本県地域医療支援機構

熊本県地域医療支援機構

地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援

◆ 熊本県医師修学資金貸与学生及び医師のキャリア形成支援について

1. 熊本県医師修学資金貸与医師のキャリア形成支援制度の実施

「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」への登録を推進しました。また、卒後3、4年目の修学資金貸与医師の配置調整等のため、キャリア支援調整会議を1月26日に開催しました。

➢ 第2回熊本県医師修学資金貸与医師キャリア支援調整会議
【開催日時】平成30年1月26日（金）14：00～14：30
【場 所】熊本大学医学部附属病院 第1会議室
【内 容】

- ・平成29年度キャリア支援調整スケジュールについて
- ・専門研修プログラム所属先への説明について
- ・卒後3年目以上の貸与医師の勤務先について
- ・熊本県修学資金貸与医師臨床研修プログラム先について



2. 熊本県医師修学資金貸与学生・医師の面談

平成29年5月～6月の間で、卒後1、2、3年次医師16名を面談し、平成29年6月～8月の間で、1年生～6年生48名を面談しました。

3. 卒業生の知事との面談

平成30年3月29日7名の卒業生が知事と面談しました。

◆ 地域医療研修システムについて

「地域医療研修連絡調整部会」を開催し、専門医制度が始まる中で、「地域医療の研修システム」の今後のあり方について検討しました。

- 平成29年度第1回地域医療研修連絡調整部会
【開催日時】平成29年9月28日 19：00～20：00
【内 容】
 - ・ 部長選出、評価委員の指名について
 - ・ 研修先病院の決定について
 - ・ 総合診療専門医プログラムの申請状況や今後の地域医療研修システムと部会の在り方について、情報・意見交換
- 平成29年度第2回地域医療研修連絡調整部会
【開催日時】平成30年3月5日 *書面会議
【内 容】
 - ・ 研修先病院の決定について

◆ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度の運営

「知事が指定する病院等の具体的な指定先」、「指定病院等の区分」、「具体的な配置ローテーションルール」等に関する規程について、熊本大学医学部新1年生（修学資金貸与学生）に説明し、「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」の登録を推進しました。

自治医科大学1年生にも同様に説明し、「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」の登録を推進しました。さらに、登録者には「今日の臨床サポート」及び「プロシージャーズ・コンサルト」の医療情報を提供するためのIDパスワードを交付しました。

区分	年数	地域枠	一般枠	県外枠	計
後期研修/地域勤務	3年目	-	3	-	3
	2年目	4	1	-	5
臨床研修	1年目	4	4	-	8
	6年生	5	2	0	7
在学生	5年生	5	6	0	11
	4年生	5	5	0	10
	3年生	7	0	1	8
	2年生	5	3	0	8
	1年生	5	0	0	5
	合計		40	24	1

◀ 熊本県医師修学資金貸与人数一覧
(平成30年1月現在)

在学生は49名、初期研修医は13名、後期研修又は地域で勤務する医師は3名、男女比は全体で7：3

◆ 総合診療専門医及び指導医の養成、確保

1. 日本専門医機構への総合診療専門医研修プログラム認定申請

平成29年8月15日付で、同機構に「熊本大学医学部附属病院総合診療専門医研修プログラム」の認定を申請し、平成29年10月11日付けで承認されました。県内では熊大の他、5医療機関（熊本赤十字病院、くわみず病院、済生会熊本病院、熊本医療センター、人吉医療センター）でプログラムが承認されました。

2. 総合診療専門医研修特任指導医の講習会

総合診療専門医研修特任指導医の講習会へ出席を奨励し、熊本大学医学部附属病院の医師をはじめ、連携・協力医療機関の医師が受講しました。

3. 総合診療専門医研修プログラムの周知

県内6つのプログラムについて、地域医療支援機構ホームページに掲載し、その周知を図りました。

また、平成29年5月14、15日に開催された日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（高松市で開催）で、新専門医制度を見込んだ総合診療専門医研修プログラムの紹介をし、さらに、熊本大学医学部附属病院専門研修説明会（6月11日）、熊本総診プログラム説明会（7月22日）、学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー（8月6日）、日本プライマリ・ケア連合学会九州支部総会（平成30年2月3日～4日）、第16回日本病院総合診療医学会学術総会（平成30年3月2日～3日）、においても同様に周知しました。

4. 総合診療専門医の熊本県内プログラムへの登録

県内6つの総合診療専門医研修プログラムのうち、熊本大学6名、熊本赤十字病院2名、合計8名が登録されました。このうち医師修学資金貸与医師2名、自治医科大学卒業医師2名が登録しました。

◆ 初期臨床研修及び新専門医制度への対応

1. 初期臨床研修関係

医師修学資金貸与学生のマッチングについてアドバイスをするなど支援を行い、卒業予定の7名全員が県内の研修病院にマッチングしました。

2. 新専門医制度

地域医療支援機構理事の松井邦彦熊本大学医学部附属病院域医療支援センター長が7月25日、9月15日、9月29日開催の熊本県専門研修プログラムに関する協議会の委員として出席し、新専門医制度の地域医療への配慮を促しました。また、平成30年2月15日開催の地域医療ゼミで、熊本県医師修学資金貸与と制度について説明し、ローテーションルールに沿った専門医の取得について、修学資金貸与と学生に検討する機会を提供しました。

◆ 熊本大学医学部、同大学医学部附属病院総合臨床研修センター、同病院総合診療科及び地域医療・総合診療実践学寄附講座との連携

- 地域医療・総合診療実践学寄附講座とは医師修学資金貸与学生主体の地域医療ゼミや夏季地域医療特別実習をはじめ各種セミナー等の開催に協力・支援し、一体となった取り組みに努めました。
- 医学部をはじめ関係組織との連携に努め、学生等の地域医療研修等の支援を行いました。

◆ 医師に関する求人・求職などの情報の発信と相談対応

◆ 熊本県地域医療支援機構のホームページによる情報発信・相談対応

ホームページに相談コーナーを設け窓口を設置しています。またイベントの告知やその報告なども行っています。

◆ 熊本県地域医療支援機構の専任医師等による相談対応

全国会議等で熊本県出身医師等からの相談を受けるとともに、地域医療ゼミ等の機会に医学生等からの相談に対応しました。また、県内の医療機関や自治体などに対しても相談対応をしました。

◆ メールマガジンによる情報発信

以下の3つのことを目的とし、メールマガジンの発行をしました。

- ① 熊本県内の医療関係者に対し、機構の取り組みを広く周知することで理解と協力を求める
- ② 県外在住の医療関係者に対し、熊本県内における地域医療の実情を知ってもらうことで、県内の地域医療への参加を促す
- ③ 熊本県内で地域医療に携わる医師及び医療関係者に対し、取り組みの状況と今後の方向性を示すことで、孤立感の緩和とモチベーションの向上を図る

<対象>

- 熊本県と縁がある県外在住の医師及び医療関係者、県内の病院・医師
- 県内自治体（市町村）の医療担当部署、熊本県及び郡市医師会
- 熊本県医師修学資金貸与学生及び医師
- 熊本出身自治医科大生及び熊本在住の自治医科大卒業医師等
- 講演会等でのアンケートでメールマガジンの受け取りを希望した医療関係者

<発信状況>

平成29年4月から約580名の登録者に対し12回、地域医療支援機構の取り組みなどを発信した。

2017/4/4	Vol.20	熊本県女性医師キャリア支援センターのホームページをリニューアルしました
2017/5/11	Vol.21	平成29年6月3日 第11回地域医療・総合診療グランドラウンドが開催されます
2017/5/25	Vol.22	平成29年6月12日 平成29年度キャリア支援セミナーを開催します
2017/6/16	Vol.23	マタニティ白衣の貸し出しを開始しました
2017/7/10	Vol.24	平成29年度熊本県地域医療支援機構講演会開催のお知らせ
2017/8/22	Vol.25	肥後ふるさと実習支援事業（熊本県地域臨床実習支援事業）開始のお知らせ
2017/9/4	Vol.26	平成29年9月23日キャリア支援セミナー開催のお知らせ
2017/11/7	Vol.27	平成29年11月14日 医学生・研修医をサポートする会セミナー開催のお知らせ
2017/11/17	Vol.28	熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー開催のお知らせ
2017/12/12	Vol.29	熊本県地域医療支援機構講演会開催のお知らせ
2017/12/21	Vol.30	メンター連絡会議開催のお知らせ
2017/12/21	Vol.31	第12回総合診療グランドラウンド開催のお知らせ

◆ 全国会議等での情報発信

全国会議等で、熊本県支援機構のチラシを配布するなど、熊本県の実況を説明し、求人活動を行いました。特に、5月13日（土）、14日（日）に開催された第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会においては、県内の総合診療プログラムの紹介と併せPR活動や求人活動を実施しました。



◆ 熊本県地域臨床実習支援制度の構築

➢ 熊本県地域医療臨床実習支援事業

県外にいる熊本県出身の医学生や、将来熊本県で従事することを考えている医学生等が、熊本県における地域医療の現状を学ぶことを支援することにより、将来の医師偏在化の是正や医師確保につなげることを目的として地域医療臨床実習支援制度（肥後ふるさと実習支援事業）を創設しました。

【募集対象者・募集人数】

募集対象者：熊本県外の大学に在学する地域医療に関心を有する医学部学生（3年生以上）

募集人数： 5名以内

【事業実施期間】 平成29年8月から平成30年2月まで

【実習期間及び実習内容】

実習期間：原則として1週間以内（最低でも2日以上）

実習内容：診療参加、診療見学等

【実習先】 知事指定病院等のうち29の医療機関（表）

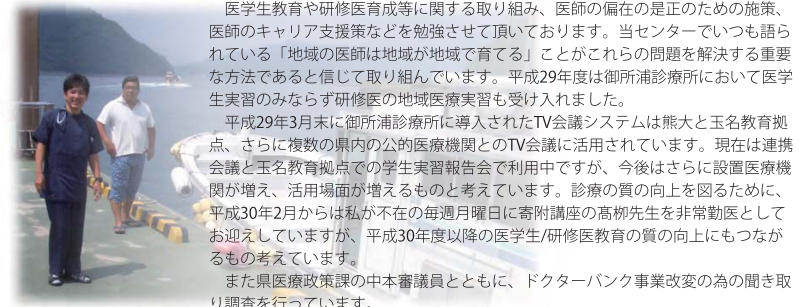
【実習結果報告】 実習希望者は、実習終了後2週間以内に報告書を機構に提出

熊本県地域医療支援機構

熊本県地域医療支援機構

◆ 客員研究員活動報告

■ 御所浦診療所 古賀義規



医学生教育や研修医育成等に関する取り組み、医師の偏在の是正のための施策、医師のキャリア支援策などを勉強させて頂いております。当センターでいつも語られている「地域の医師は地域が地域で育てる」ことがこれらの問題を解決する重要な方法であると感じています。平成29年度は御所浦診療所において医学生実習のみならず研修医の地域医療実習も受け入れました。

平成29年3月末に御所浦診療所に導入されたTV会議システムは熊本と玉名教育拠点、さらに複数の県内の公的医療機関とのTV会議に活用されています。現在は連携会議と玉名教育拠点での学生実習報告会で利用中ですが、今後はさらに設置医療機関が増え、活用場面が増えるものと考えています。診療の質の向上を図るために、平成30年2月からは私が不在の毎週月曜日に寄附講座の高柳先生を非常勤医としてお迎えしていますが、平成30年度以降の医学生/研修医教育の質の向上にもつながるものと考えています。

また県医療政策課の中本審議員とともに、ドクターバンク事業変更の為の聞き取り調査を行っています。

◆ 県内医療関係機関との協力関係の構築

◆ 評議委員会議の開催

地域の医療関係者の合意のもと熊本県地域医療支援機構の業務を進めていくために、地域の医療機関の代表者などで構成される評議員会議を開催しました。

➢ 第6回熊本県地域医療支援機構評議員会

【日時】 平成30年3月19日 17:30~18:30

【協議事項】

- (1) 平成29年度事業実績について
 - (2) 平成30年度事業計画について
- 【報告事項】
- (1) へき地医療及び医師・歯科医師確保に関する医療機関調査について
 - (2) キャリア支援調整会議の結果について
 - (3) 地域医療研修連絡調整部会の結果について
 - (4) 熊本県地域臨床実習支援制度について
 - (5) 女性医師等の就業継続及び復職支援について
 - (6) 地域医療の実習教育等について
 - ・全国医学部長病院長会議「地域枠制度についての意見交換会」
 - ・特別臨床実習（地域医療）等、卒前教育の状況
 - ・平成29年度夏季地域医療特別実習、地域医療ゼミ
 - (7) 地域医療支援機構講演会（7月、1月）について

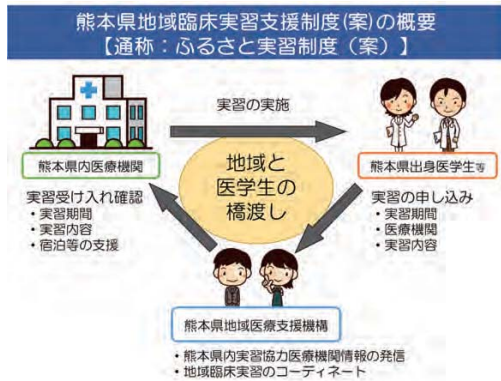
【その他】

- (1) 熊本大学医学部附属病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の教育拠点について

◆ 県内医療機関に対する助言などの支援、医療機関との連携、調整

年間報告書を作成し、市町村、医療機関等に配布したり、機構リーフレットを増刷し、関係者等に配布しました。

また、地域臨床実習支援制度の創設に向けて知事指定の病院に実習の協力を打診し、29病院からの協力を得ました。



実習先一覧 ▼

- ・ 荒尾市民病院
- ・ 公立玉名中央病院
- ・ 山鹿市民医療センター
- ・ 熊本再春荘病院
- ・ 熊本労災病院
- ・ 熊本総合病院
- ・ 水俣市立総合医療センター
- ・ 人吉医療センター
- ・ 天草地域医療センター
- ・ 天草中央総合病院
- ・ 阿蘇医療センター
- ・ 小国公立病院
- ・ そよう病院
- ・ 公立多良木病院
- ・ 上天草総合病院
- ・ 河浦病院
- ・ 熊本県立こころの医療センター
- ・ 熊本南病院
- ・ 熊本県こども総合療育センター
- ・ 宇城市民病院
- ・ 済生会みすみ病院
- ・ 玉名地域保健医療センター
- ・ 和水町立病院
- ・ 菊池都市医師会立病院
- ・ 菊池病院
- ・ 八代市立病院
- ・ 牛深市民病院
- ・ 湯島へき地診療所
- ・ 御所浦診療所

熊本県地域医療支援機構講演会



2017年7月28日金曜 19:00~20:30
平成29年度熊本県地域医療支援機構講演会
「熊本県の地域医療を考える」

平成29年7月28日に、天草地域医療センターのヒポクラート（ホール）で熊本県地域医療支援機構講演会を開催しました。
熊本県内における医師の地域偏在の問題は、依然として解決が困難な状況にあります。そこで今回は、地域と当機構がともに協力し、改善策を考えるために、医師不足が深刻な天草地区で開催しました。

熊本県地域医療支援機構

熊本県地域医療支援機構



開催のあいさつ
熊本県地域医療支援機構理事 熊本県健康福祉部
迫田 芳生 医監



来賓あいさつ
天草市副市長 金子 邦彦 様



来賓あいさつ
天草都市医師会会長 酒井 一守 様

まず熊本大学医学部附属病院地域医療支援センター 松井邦彦センター長から熊本県地域医療支援機構3年間の活動報告の後、熊本県地域医療構想の地域版策定に当たられた天草保健所長の稲田知久所長から、「天草二次医療圏における地域医療構想」と題してご講演をいただきました。

引き続き、設置されて既に2年が経過した、熊本大学医学部附属病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の教育拠点がある公立玉名中央病院の中野哲雄病院長から、「玉名地域における医療の現状と未来」と題して、玉名地域での取り組みについてご講演いただきました。



1、熊本県地域医療支援機構の3年間の活動報告
熊本県地域医療支援機構理事
熊本大学医学部附属病院 松井 邦彦 特任教授



2、天草二次医療圏における地域医療構想
熊本県天草保健所長
稲田 知久 先生



天草地域では、全国の8割の医師数で2.2倍の病床を担当しており、医師不足が進むことが懸念されていることや、今後の地域医療構想の実行に当たっての課題などについて、天草保健所の稲田知久所長からご講演をいただきました。



3.玉名地域における医療の現状と未来
—公立玉名中央病院の取り組み—
公立玉名中央病院長 中野 哲雄 先生

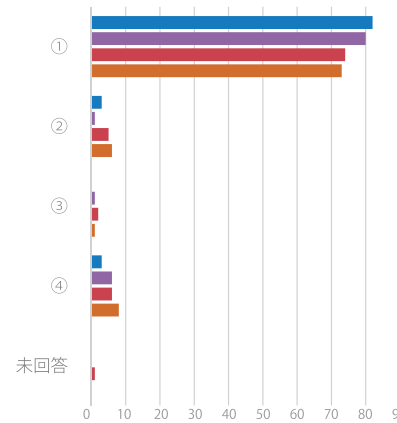


公立玉名中央病院に設置されてから2年を経過した、熊本大学医学部附属病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の玉名教育拠点の積極的な取り組みや、玉名地域医療センターとの経営統合など玉名地域における取組について、公立玉名中央病院の中野哲雄病院長からご講演いただきました。



閉会のあいさつ
熊本県地域医療支援機構評議員
天草地域医療センター 原田 和則 病院長

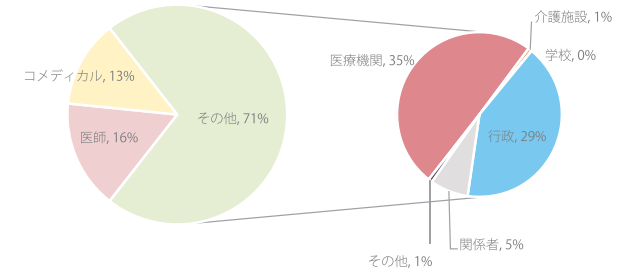
▶ 講演後アンケート結果



- 本日の講演会は全体を通していかがでしたか？
 - ① 参考になった 82
 - ② どちらでもない 3
 - ③ 参考にならなかった 0
 - ④ その他 3
- 機構の活動はいかがでしたか？
 - ① 評価する 73
 - ② どちらでもない 6
 - ③ できない 1
 - ④ そのほか 8
- 天草の地域医療構想についていかがでしたか？
 - ① 理解できた 74
 - ② どちらでもない 5
 - ③ できなかった 2
 - ④ そのほか 6
- 玉名での取り組みはいかがでしたか？
 - ① 参考になった 80
 - ② どちらでもない 1
 - ③ ならなかった 1
 - ④ そのほか 6

■ 参加者の内訳

左大：職業
右小：職業でその他と回答された方の所属





2018年1月27日土曜 16:00～18:00
平成29年度熊本県地域医療支援機構講演会
「地域包括ケアにおける医療機関の役割と課題を考える」

平成30年1月27日、熊本市医師会館の講堂にて平成29年度2回目の熊本県地域医療支援機構講演会を開催しました。

平成29年3月に策定された熊本県地域医療構想では、2025年を目途に『地域包括ケアシステム』の構築を進めることの方針が示されており、今後も地域包括ケアを推進していくためには、各地域に適した医療機関（医師）の取り組みが求められています。そこで、県内での取り組みを紹介し、地域包括ケアの推進に当たって医療機関（医師）の役割と課題を共に考える機会とする為、講演会を開催いたしました。

まずは、熊本県地域医療支援機構理事で熊本県健康福祉部の迫田芳生医監と、共催団体であります県医師会の理事で、本日の講師でもあります林邦雄先生に開会のご挨拶をしていただきました。



開会のあいさつ
熊本県地域医療支援機構理事
熊本県健康福祉部 迫田 芳生 医監



開会のあいさつ
熊本県医師会理事 林 邦雄 先生

次に「熊本県における地域包括ケアの取り組み」について、行政の取組みとして、熊本県認知症対策・地域ケア推進課の松尾亮爾課長補佐から、医師会の取組みについては、熊本県医師会理事で医療政策を担う林邦雄先生から、「くまもとメディカルネットワーク」の取組みについては、熊本県医師会理事で医療情報担当の金澤先生からご講演をいただきました。



1、熊本県における地域包括ケアの取組み
熊本県認知症対策・地域ケア推進課 課長補佐 松尾 亮爾 様



2、熊本県における地域包括ケアの取り組み～医師会の取組み～
熊本県医師会理事 林 邦雄 先生



3、熊本県地域医療等情報ネットワーク「くまもとメディカルネットワーク」
熊本県医師会理事 金澤 知徳 先生

その後、4名の先生を交えてのパネルディスカッションを予定しておりましたが、時間の都合上予定を変更して、それぞれの先生からご講演をしていただきました。

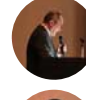
山都町包括医療センターそよう病院院長の水本誠一先生からは病院管理者のお立場から、「そよう病院および山都町東部地区における地域包括ケアの取り組み」について、公立多良木病院の春口洋賜先生から在宅医療センター長のお立場から「多良木病院在宅医療センターおよび球磨地区における地域包括ケアへの取り組みの現状と課題」について、たまな在宅ネットワーク在宅医療連携コーディネーター永杉憲弘様から「玉名在宅ネットワークにおける地域包括ケアへの取り組みと課題について」、九州看護福祉大学生涯教育研究センター准教授開田ひとみ先生からは看護協会の訪問看護サポートセンター運営委員のお立場から「訪問看護師による地域包括ケアへの取り組みの現状と課題」についてご講演いただきました。

熊本県地域医療支援機構

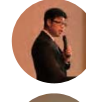
熊本県地域医療支援機構



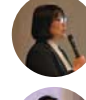
そよう病院および山都町東部地区における地域包括ケアの取り組み
～病院を核としたコンパクトな連携～
山都町包括医療センターそよう病院 水本 誠一 先生



球磨郡公立多良木病院の取り組み
公立多良木病院 春口 洋賜 先生



たまな在宅ネットワークにおける地域包括ケアへの取り組みと課題について
たまな在宅ネットワーク事務局（玉名地域保健医療センター医療連携室）
在宅医療連携コーディネーター 永杉 憲弘 様

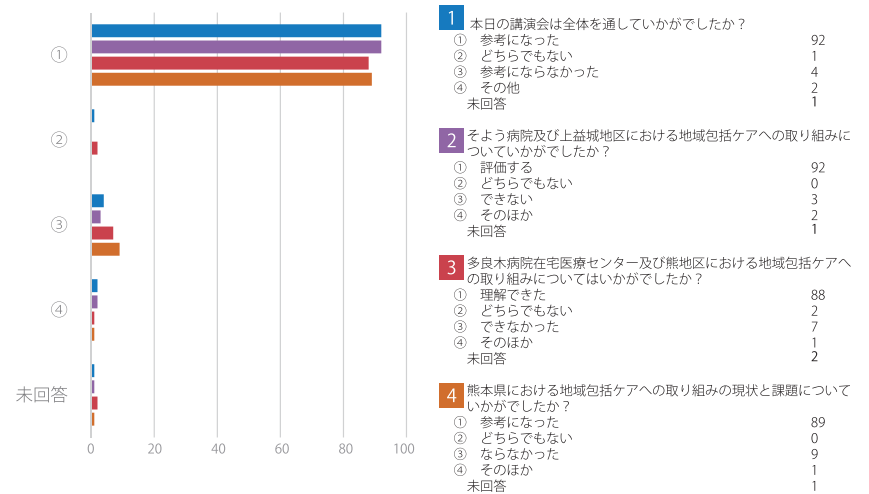


訪問看護師による地域包括ケアへの取り組みの現状と課題
九州看護福祉大学 生涯教育研究センター准教授 開田 ひとみ 先生



閉会のあいさつ
熊本県地域医療支援機構理事 松井 邦彦 先生

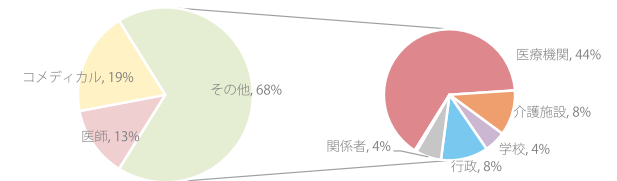
▶ 講演後アンケート結果



■ 参加者の内約

左大：職業

右小：職業でその他
回答された方の所属



女性医師キャリア支援

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、①復職支援 ②短時間勤務 ③育児支援 ④メンター制度 ⑤セミナー（啓発活動）を5つの柱にキャリア支援を進めることが重要と考え活動しています。今年度から新たにマタニティ白衣の貸出を開始したほか、以下の事業に取り組みました。

- マタニティ白衣の貸出
- お留守番医師制度
- メンター制度、メンター連絡会議
- キャリア支援セミナー
- クローバーセミナー
- 学童保育のニーズ調査
- 広報活動（ホームページ、テレビ、雑誌掲載、チラシの作成等）
- 学会・講演会などでの発表、情報交換
- 学生への啓発活動として、「医学生・研修医等をサポートするための会」開催や、1学年・4学年への講義

◆相談件数

平成29年度（2017年4月1日から2018年2月28日まで）は総計55名から相談や制度のお問い合わせがありました。うち24名が男性で、「支援制度について」「求人のお問い合わせ」の問い合わせが多く、34名が女性で、「働くこと、働き方について」の相談が多くありました。

特に女性医師4名からの相談は、自身の復職やキャリア継続に繋がりました。

復職・キャリア支援に繋がった相談 ▼

40代	女性	お留守番医師制度利用（月3回/1日3.5時間勤務）
30代	女性	お留守番医師制度利用（週1回/1日3時間勤務）
30代	女性	お留守番医師制度利用（月2回/午前中のみ勤務）
40代	女性	求人情報の提供

相談の総内訳（延べ相談数） 2017年4月1日～2018年2月28日 ▼

働くこと働き方についての相談	16
支援制度についての問い合わせ	13
お留守番医師制度について	13
求人のお問い合わせ	11
ネットワークづくり	9
保育施設について	8
同僚・医局の医師について	6
マタニティ白衣について	5
メンター制度について	4
復職相談	4
社会保険等について	4
子育てについて	0

◆マタニティ白衣



2017年6月からマタニティ白衣の貸出を始めました。ポケットにつけた刺繍のクローバーの形は、フェイスブック「CLOVERママの会」の人気投票で決めました。

これまでに5人の医師にご利用いただき好評をいただきました。サイズはSとMがあります。センターまで来ていただければ、試着も可能です。郵送による貸出もできますのでどうぞお気軽にお問い合わせください。

使用した感想▼

- マタニティ白衣については、まずは、お腹が大きくてもボタンをとめて白衣を着られたのが、一番良かったです。外来した感じでも、あまりお腹も目立たなかったようでした。
- 着ていた時期が夏だったこともあり、暑かったというはあります。半袖があったら便利かなとも思いました。



外来での利用の様子▲

◀マタニティ白衣利用第1号授与式

熊本県地域医療支援機構

熊本県地域医療支援機構

◆お留守番医師制度

「お留守番医師制度」では、家庭との両立や自身の健康などに不安を抱える方にも復職しやすい環境の協力機関（現在10医療機関）と連携しています。復職希望医師にとっては週1回（場合によっては月1回も可）からの復職が可能で、在宅医療を開始したい医療機関にとっては代診医師の確保につながり、地域住民にとっては、かかりつけ医の訪問診療を受けることが可能になるwin-win-winの互助システムです。

熊本県女性医師キャリア支援センターの復職コーディネーターが復職希望者の体験申し込みを受けて、在宅医療を開始したいドクターとつなぎ、体験日を決めます。体験がうまくいけば、当事者同士で3か月更新の雇用契約を結びます。

また、この制度で勤務中には、熊本市医師会保育所「メディッククラブ」が無料で利用できます。

今年度は3名の医師がこの制度を利用し復職されました。

新たに登録される医療機関には説明会を行っています。

今年度は3医療機関と八代都市医師会で説明会を開催いたしました。説明会開催もお気軽にお問い合わせください。



お留守番医師制度に加入している医療機関
(2018年1月31日時点) ▼

熊本市東区	平山ハートクリニック
熊本市南区	土井内科胃腸科医院
熊本市北区	医療法人清藤クリニック
熊本市北区	なかむらファミリークリニック
益城町	益城なかぞのクリニック
上益城郡	谷田病院
玉名市	ひがし成人・循環器内科クリニック
玉名市	河野医院
菊池市	宮本内科クリニック
阿蘇市	医療法人社団順幸会阿蘇立野病院



◆メンター制度

メンター制度とは、キャリアについて、ワークライフバランスについて、先輩に悩みを聞いてもらい、一緒にキャリアやライフの目標設定を考えてみる取り組みです。気軽に取り組めるよう、メンター・メンティの関係性は1年間限定とし、希望があればさらに1年間延ばすこととしています。

メンターとして現在23人の男女医師が登録しており、メンター自身のスキルアップを目的に、年に3回「メンター連絡会議」を開催しています。

➢ 5月31日

議題：「メンター制度及び今後の運営方針について」

講師：地域医療支援センター 後藤 理英子

2017年4月より開始したメンター制度の運営方法についてメンターに確認、報告するとともに、メンティとのコミュニケーションやチームマネジメントに必要な性格の見分け方、性格のタイプ別のかかり方について学びました。



➤ 9月23日

議題：「ロールモデルの役割とワーク・ライフ・バランスの重要性」

講師：東京女子医科大学心臓血管外科 富澤 康子 先生

日本の女性外科医のワークライフバランス、妊娠と出産時期のデータなどを紹介していただきました。また、世界の女性外科医が集まるAnnual International Women in SurgeryのCareer Symposiumや日本女性外科医会での活動を紹介していただき、女性医師のキャリアアップのための支援の実際、特にMentorshipとSponsorshipの必要性についても教えていただきました。



熊本県地域医療支援機構

熊本県地域医療支援機構

➤ 1月20日

議題：「女性医療人の悩みトップ5」

講師：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学 川畑 智子 先生

岡山大学医療人キャリアセンターMUSCATでのキャリア支援10年の実績、軌跡について紹介していただき、これまでの相談内容から、女性医療人の悩みについて理解を深め、今後のキャリア支援に必要なサポートの在り方について学びました。



◆ クローバーセミナー



2017年12月12日火曜 19:00~21:00

熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー

「医療人のやる気スイッチ」

平成29年12月12日（火）熊本大学医学部附属病院 山崎記念館において、熊本県地域医療支援機構と熊本大学医学部附属病院男女共同参画推進委員会主催で、熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー「医療人のやる気スイッチ」が開催されました。熊本県医師会と熊本市医師会にも共催いただきました。



開催のあいさつ
熊本県地域医療支援機構理事長
水田 博志 先生



1、「クローバーの会活動報告」
熊本県医師会男女共同参画担当理事 クローバーの会会員
九州中央リハビリテーション学院 学院長
河野 文夫 先生



2、「やる気スイッチグラフ開発物語」

久留米大学病理学講座 助教 久留米大学病院元気プロジェクト委員会副委員長

守屋 普久子 先生

医療人のやる気スイッチについてご講演いただき、復職・就労継続のための支援に必要な要素について改めて考える機会となりました。



3、「熊本YMCA放課後サザンスクールの取り組みについて」

公益社団法人熊本YMCAみなみセンター副館長 子育て支援事業部 副部長

桑原 奈緒子 様

放課後プログラムの実際もご紹介いただき、多くの医療人がぶつかる「1年生・4年生の壁」を乗り越えることができるような取り組みが今後さらに展開されることに期待がかけられました。



4、事例報告「医療人のやる気スイッチ」

1) 熊本大学医学部附属病院 乳腺内分泌外科 指宿 睦子 先生

2) 国立病院機構熊本医療センター 小児科 楠木 翔一朗 先生



事例報告をしていただいた指宿先生・楠木先生のお話には衝撃と感動を覚えました。支援する側、支援される側共にやる気スイッチがonになるような仕組みを作っていければと、切に感じました。



閉会のあいさつ

熊本大学医学部附属病院男女共同参画推進委員長

三上 芳喜 先生

➤ クローバーセミナーのアンケート結果

- 自らのやる気スイッチをonにする要素として、「家族の応援」、「上司・同僚からの期待」が上位に挙がりました。その他、「ありがとう」などの承認の言葉、旅行などの日常を離れた時間、新しい発見をすることなどがありました。
- Offにする要素としては、「過労」が1位でした。その他、時間の余裕のなさ、否定的な言葉、家族の不仲や病气、仕事における役割の低さ、配偶者の非協力的な言動などがあげられました。
- 職場全体のやる気スイッチをonにする工夫としては、「適切な仕事量（マネジメント）」や「責任ある仕事を任せせる事（昇進制度）」が上位に挙がりました。その他、ON/OFFのはっきりした生活、適切なサポートと評価、仕事と家庭が両立できる環境づくりなどがあげられました。

◆ 平成29年度キャリア支援セミナー「あながーまねじめんと 超入門」

2017年6月12日月曜 18:30~20:00



秋田大学医学部総合地域医療推進学講座
准教授 蓮沼 直子 先生

6月12日に平成29年度キャリア支援セミナーを開催し、秋田大学医学部総合地域医療推進学講座准教授の蓮沼直子先生に「アングーマネジメント超入門」を教えてくださいました。

怒りとは何か知識を得、グループワークを通して怒りについて考え、衝動・思考・行動のコントロールについて学ぶことができました。



熊本県地域医療支援機構

熊本県地域医療支援機構

◆ 平成29年度キャリア支援セミナー「初心者向け！英語論文の書き方のコツ」

2017年9月23日土曜 13:30~15:00



東京女子医科大学心臓血管外科
富澤 康子 先生

9月23日（土）にキャリア支援セミナー「初心者向け！英語論文の書き方のコツ」を開催しました。東京女子医科大学心臓血管外科の富澤康子先生を講師にお招きし、英語論文の書き方について講義していただきました。参加者より、「論文のモチベーションが上がった」「書き方に迷っていたがスッキリした」「必要なツールが分かり使ってみようと思う」などうれしい感想をいただきました。



◆ 医学生・研修医をサポートする会セミナー「医療現場の接遇研修」

2017年11月14日火曜 19:00~21:00



ANAビジネスソリューション株式会社
目代 久美子 先生

11月14日、熊本県医師会主催で『平成29年度医学生・研修医をサポートする会』が開催されました。本年度の『医学生・研修医をサポートする会』は、ANAビジネスソリューション株式会社で講師として活動中の目代久美子先生を講師にむかえ、「医療現場の接遇研修」を開催。38名の方にご参加いただきました。接遇の基本から、立ち姿、礼や名刺交換の仕方の実践など大変勉強になりました。



◆ 学童保育ニーズのアンケート調査

平成27年度に実施した、熊本県内の公的病院および100床以上を有する病院に勤務する男女全医師を対象としたアンケート結果では、熊本県内の公的病院で働く女性医師は子供が小学生になると離職し、その後の公的病院には復職できていない可能性が示され、「小学1年生の壁」や一般的な学童保育が終了する「小学4年生の壁」をどのように乗り越えるかが今後の課題であることが明らかになりました。そこでこの度学童保育のニーズ調査を実施しました。

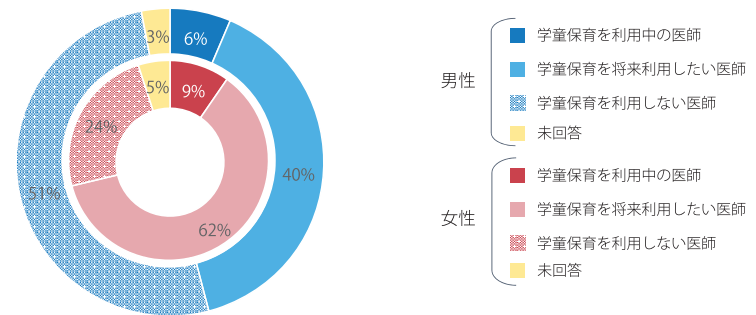
*対象医療機関：熊本県内の公的病院および100床以上を有する病院 154病院

*医療機関の回答率は54.5%

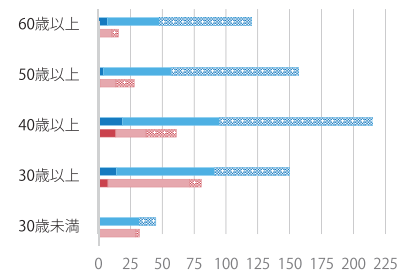
*医師回答率は43.2%（有効回答率：43.4%）

*男性703人 女性219人 不明2人（男女比 76%：23% 不明1%）

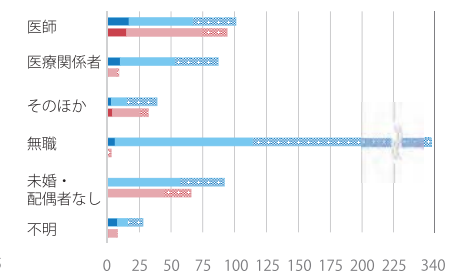
将来的にまたは現在、子または孫について、学童保育を利用されていますか？
もしくは将来的に利用したいですか？



各年代別人数（学童の利用別）



各配偶者職種別人数（学童の利用別）



合計で51.8%の人（男性の45.9%、女性の71.2%）が学童保育を利用している、もしくは将来利用したいと回答しました。未婚、配偶者が無職の人を除くと学童保育が不要と考えている人は28.9%でした。男性でも40歳未満の若い世代では学童保育を利用したいと考えている人の割合は増えており、共働き世帯が増える中、学童保育のニーズは今後さらに増加する可能性があります。

今回の調査により、現時点で学童保育の対象となる小学生だけでも110人の学童保育の利用希望があり、将来学童保育を利用する可能性がある未就学児は179人になりました。平成28年に実施したアンケートでは学童保育を有する病院は熊本県内で5件と少なく、今後の育児支援拡大が期待されます。アンケートにご協力くださった医療機関、先生方には深く御礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

何時までの学童保育が必要だと考えますか？

時間	人数	その他
18時まで	93	そのほか
19時まで	217	・17時まで
20時まで	108	・お迎えまで
21時まで	30	・希望する時間
22時まで	26	・土・日まで
そのほか	8	・24時まで(2人)
		・無制限
		・18時もしくは19時まで

何歳(何年生) までの学童保育が必要だと考えますか？

学年	人数	その他
3年生まで	116	そのほか
4年生まで	101	・15歳まで
5年生まで	9	・小学入学前まで
6年生まで	243	・5歳まで
そのほか	6	・兄弟に応じて年齢関係なしに、
		・個人個人違うので分からない。
		・6歳まで

利用中の学童保育について、不便な点・要望があれば教えてください。

- ・18時までに迎えに行くことは困難。職場から学童までの迎えに要する時間、渋滞を考慮するとフルでは働きづらい。
- ・利用できる学年の制限がある。(低学年のみ利用可)
- ・小学3年生までの利用となっており小学4年生から1人で留守番となることが心配。
- ・台風・学級閉鎖があると学童も休みになる。
- ・利用時間が短く学童保育後に再度預ける必要がある。予約システムや保育の質を考えてもらえると嬉しい。
- ・学習時間が短い気がする。帰宅が遅く、帰ってからの学習時間確保が難しい。
- ・宿題を済ませる程度なので教育が不十分になりがち。
- ・利用人数に比べて学童スペースが非常に狭い箇所もあり子供達も先生方も大変そう。
- ・学童保育は人数が多くて指導員の目が行き届いてない。
- ・夏休みは弁当持参である。
- ・家庭的な雰囲気だとありがたく、経験や指導のできる方が指導者だとよい。
- ・日曜日も利用できたらいい。
- ・何らかの教育的な事が少しでもできればありがたい。
- ・学校の学童保育は責任問題の認識の矛盾があり辞めました。仕事中に呼び出され責任追及された。
- ・延長時間の対応など場所により異なる印象をもちます。

学童保育を利用しない理由について教えてください。

— 男性医師 —

配偶者の職業	理由
医師	自宅そばに妻の両親が住んでおり夕方から夜間は両親をお願いできるため。
医師	祖父母と同居している。義母のサポートがある。妻が非常勤。妻の実家のサポートがある。一時通ったが合わなかった。
医療関係者	妻はパート勤務。母も家にいる。習い事が多数。卒園した保育園の学童保育があるため。
その他	家族で教育する。子供の帰宅時には父母いずれかが自宅にいる可能性が高いから。
その他	学童がない。
無職	妻が定職につく予定がないため。家族で対応が可能と考えられる。
無職	子供の人格形成のため、自立のため、教育のため、できれば母親にみてほしい。
無職	妻は離職し専業主婦となったため。学童がない。保育環境。
未婚	祖父母が在宅もしくは妻が専業主婦なら在宅。塾や習い事を入れるだろうから。
不明	妻がすでに離職している。地理的な問題。

— 女性医師 —

配偶者の職業	理由
医師	両親が近くに住んでおり支援が得られるため。
医師	送迎が不便、保育環境。
医療関係者	日替わりで習い事や塾を入れているので学童を使う必要がない。
医療関係者	他のサービスの方が保育環境がよい。学童がない。
その他	夫の職場が自宅に近くなり学童保育が必要なくなった。
その他	親と同居しているので親にみてもらう。学童がない。
無職	子どもがいない為。
無職	夫が育児している。
未婚	子供を作る予定はない。すでに適応年齢を過ぎた。
不明	小学校の学童保育に入れたところ子供が激しく嫌がった。祖父母宅が近くにあるため。

▲男女ともに祖父母の協力が得られているという理由が多い。

熊本県地域医療支援機構

熊本県地域医療支援機構

長期休暇の時のこどもたちの過ごし方について教えてください。

- ・お弁当を用意しておき、子は1人で部活・塾などへ。
- ・平日は学童。自分が休みの時出かけたりキャンプに参加。
- ・妻が仕事中は祖母の家や親戚の家で過ごす。
- ・サマースクールなどへ行く。終わったら祖父母の家。
- ・祖母に預ける。シッターさんに日替わりで来てもらう。
- ・塾やYMCAのサマープログラム。3年生まではファミリーサポートさんの家へ預けた。(習い事の送迎も)
- ・宿題・習い事以外は兄弟で遊んで過ごしている。基本習い事が多いためたまに出かける程度。
- ・朝塾へ送り、夕方祖母が迎え。塾が休みの時は、私が主人が職場へ連れていく。(一緒に病院で過ごす)
- ・小学校の育成会?。YMCAの放課後プログラム。
- ・自宅で留守番(小5)。隣に祖父母が住んでいるので行き来したり一人でTV・勉強・友達と遊んだり。
- ・家族旅行やレジャーをなるべく行うようにしている。
- ・長期休暇は祖父母宅や親戚の家へホームステイ。もしくは自然キャンプ。
- ・水泳やその他の夏期講習プログラムに参加する。
- ・学童保育や、職場の小中学生プログラムの参加。(主に職場のプログラムを利用)
- ・学生の兄・姉の様子をみてもらいながら過ごさせている。
- ・お手伝いさんや親戚の力を借りてなんとか過ごしている。
- ・3年までは学童保育。4年以上は家庭学習→部活→家庭(家政婦さんと留守番)

長期休暇の時のこどもたちの過ごし方について不安な点・要望はありますか？

- ・出費がかさむ。
- ・夏場は熱中症も心配で家で過ごすことが多い。
- ・体力低下が心配。
- ・昼食をどうしようか悩む。
- ・女性医師の増加で男性医師の負担が増え、子どもと関わる時間が取れない。
- ・子どもだけで過ごすので、生活、体力、安全面で不安。
- ・球技をする場所がない。
- ・塾に行かせているが出費が痛い。
- ・小4の壁、小1の壁を感じる。退職をよく考える。
- ・スポーツを習えたりいろんな体験ができたりするような預かりをしてくれるところがあればいいのに。

メディッククラブでの一時保育について知っていますか？

	男性 (703人)		女性 (219人)		合計 (924人)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
30歳未満	5	0.7%	6	2.7%	11	1.2%
30歳代	24	3.4%	19	8.7%	43	4.7%
40歳代	38	5.4%	31	14.2%	69	7.5%
50歳代	36	5.1%	12	5.5%	48	5.2%
60歳以上	23	3.3%	4	1.8%	27	2.9%
利用したことがある	6	0.9%	10	4.6%	16	1.7%
合計	132	18.8%	82	37.4%	214	23.2%

◀924人中214人(23.2%)がメディッククラブの一時保育を知っていて、実際に利用したことがある人は男性で6人(0.9%)、女性で10人(4.6%)であった。

メディッククラブを利用して良かった点、不便だった点などについて教えてください。

- ・1:1または1:2で丁寧だった。子供たちが大変喜んでいました。メディッククラブなら行くと言うのが18時までが早い。
- ・学会・セミナーに合わせて利用できる。勉強会や研究会などで利用しました。
- ・熊本市医師会に入っていない。情報もない。
- ・熊本地震後に小学校が休校の時利用。
- ・学校の振り替え休日にも利用を子供と相談。地震の前は小学生対応の事を知らなかった。
- ・時間帯によっては食事も食べさせていただけのりで助かりました。大学に近く駐車場もあるので利用しやすい。
- ・震災後に保育園が休園になった際に利用した。保育園のならば保育に利用出来て良かった。
- ・同僚医師の話ですが、土日の講習会指導の時も助かると聞いています。自分の時にもあれば利用したかった。
- ・人数があまり多くないのがよい。土日祝日が充実すると良い。
- ・予約システムがやや不満。予約がだいぶ前にしないといけないのが不便。
- ・場所が分かりやすく清潔。
- ・予約できる時間に勤務中で電話できない。
- ・利用料金が高く毎日は無理。(一時保育では金額が高く選べにくい)
- ・自宅・学校から遠いので預けるまでが大変。

③ 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要

「地域医療・総合診療実践学寄附講座」は、前年度末に活動を終了した「地域医療システム学寄附講座」の後継として平成28年4月1日に設置されました。当講座は、これまでの医師循環システムに関する調査研究や地域医療実習教育に関する調査研究等の成果を踏まえ、「医学生や若手医師への卒前からの一貫した地域医療教育」「総合診療医の育成」「地域医療実践教育拠点の運営」など、地域医療を志す医師の養成を目指して、より実践的な取り組みを進めることを目的としています。

【主な内容】

- ① 地域医療支援（診療支援）
- ② 調査・研究
- ③ 教育活動
 - ・卒前教育（カリキュラム内教育）
 - ・卒後教育
 - ・初期臨床研修
 - ・専門研修
- ④ 指導医養成
- ⑤ 講演会

2. 年間活動実績

月	日	行事
4	20	地域医療ゼミ
	28	第3タームクリクラ振り返り会
5	13-14	第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
	17	第10回地域医療・総合診療グランドラウンド（地域医療ゼミ）
	26	第4タームクリクラ振り返り会
6	3	第11回地域医療・総合診療グランドラウンド
	11	卒後臨床研修プログラム説明会 熊大専門研修説明会
7	16	第5タームクリクラ振り返り会
	20	地域医療ゼミ
8	7	第6タームクリクラ振り返り会
	22	熊本大学総合診療専門医研修プログラム説明会
9	16-18	夏季地域医療特別実習
	15	第7タームクリクラ振り返り会
10	21	地域医療ゼミ
	1	熊大専門研修募集説明会
	14	第1回レジデントデイ
11	19	地域医療ゼミ
	14	医学生・研修医をサポートする会セミナー（地域医療ゼミ）
12	4-5	クリクラ説明会（1・2ターム）
	21	地域医療ゼミ
1	18	地域医療ゼミ
	20	第12回地域医療・総合診療グランドラウンド
	26	第1タームクリクラ振り返り会
2	27	第2回レジデントデイ
	15	地域医療ゼミ
	16	第2タームクリクラ振り返り会
3	23	第13回地域医療・総合診療グランドラウンド
	2	クリクラ説明会（3～7ターム）
3	17	第3回レジデントデイ
	23	地域医療ゼミ

地域医療・総合診療実践学寄附講座

地域医療・総合診療実践学寄附講座

3. 活動報告

① 地域医療支援（診療支援）

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、専門診療科以外の受診を目的とした初診患者を中心に診療を行いました。また、大学病院の救急外来診療等も担当しました。玉名教育拠点にては、「総合診療科」の外来および病棟診療を行いました。また同院の救急診療にも携わりました。その他の熊本県内の医師が不足している病院に対し、県からの要請に基づき、診療支援活動を行いました。

◆ 大学病院 総合診療外来

▶ 平成29年4月1日～平成29年9月30日

月	火	水	木	金
	松井	高柳	佐土原	松井
	佐土原			前田

▶ 平成29年10月1日～平成30年1月31日

月	火	水	木	金
前田（偶数週）	松井	高柳	佐土原	松井
	佐土原			高柳

▶ 平成30年2月1日～平成30年3月31日

月	火	水	木	金
前田（偶数週）	佐土原	高柳	佐土原	松井
				高柳

◆ 学外診療支援

松井	H29.4～H30.3	公立玉名中央病院（週1回）	高柳	H29.10～H30.1	牛深市民病院（週1回）
	H30.2～H30.3	牛深市民病院（週1回）		H29.10～H29.12	公立玉名中央病院（週1回）
佐土原	H29.4～H30.3	公立玉名中央病院（週1回）	前田	H30.1～H30.3	天草地域医療センター（週1回）
	H29.4～H29.9	牛深市民病院（週1回）		H30.2～H30.3	御所浦診療所（週1回）
	H29.10～H30.3	天草地域医療センター（週1回）		H29.4～H29.9	上天草総合病院（週1回）
				H29.4～H29.9	公立玉名中央病院（週1回）

② 調査・研究

◆ 地域医療実習教育に関する調査研究

平成28年度から始めた、医学科3年次学生に対する地域医療実習（早期臨床体験実習Ⅲ）については、昨年度の実施結果を踏まえ、改善を図った上で12月4日～8日に実施しました。また、5・6年次学生に開講している地域医療特別実習（クリニカルクラークシップ）については、平成30年度に必修化されることを想定して、本年度の実施において問題点の洗い出しを行いました。

◆ 総合診療専門医普及に関する調査研究

新専門医制度の「熊本大学総合診療専門医プログラム」については、日本専門医機構の承認を得て、平成30年度4月からプログラムを運営することが決定しました。また、専攻医も6名の応募があり、全員が合格しています。

◆ 医療機関の勤務環境に関する調査研究

県内の医療機関の勤務環境については、熊本県の委託を受け、県内の全医療機関の調査を行いました。収集できたデータは熊本県において管理されていますが、一部は当講座においても活用しています。

◆ 教育拠点に関する調査研究

公立玉名中央病院に設置した「玉名教育拠点」においては、急激に利用者が増加して対応が難しくなったため、今年度から常駐の教員を1名増員して対処しています。また、第2の教育拠点の設置については、医師不足が顕著な地域をターゲットに絞り、候補先を選定することにしました。

地域医療・総合診療実科学寄附講座

地域医療・総合診療実科学寄附講座

◆ 教育活動

◆ 卒前教育（カリキュラム内教育）

地域医療システム学寄附講座を設置以来、これまでも医学科カリキュラムの実施に協力してきましたが、昨年度から、地域医療・総合診療実科学寄附講座として、医学科長からの正式な依頼に基づき、以下の実習および講義を行いました。なお、熊本県地域医療支援センターへの依頼があった講義（※）も、一緒に記載しています。

- | | | | | |
|-----|--|-----|---|---|
| 1年生 | <ul style="list-style-type: none"> 早期臨床体験実習Ⅰ 医学概論※ | 4年生 | <ul style="list-style-type: none"> 医療と社会Ⅰ 総合診療学 | <ul style="list-style-type: none"> 臨床実習入門 チュートリアル |
| 2年生 | <ul style="list-style-type: none"> 早期臨床体験実習Ⅱ 医学英語 | 5年生 | <ul style="list-style-type: none"> 特別臨床実習 | |
| 3年生 | <ul style="list-style-type: none"> 早期臨床体験実習Ⅲ 公衆衛生学 | 6年生 | <ul style="list-style-type: none"> 特別臨床実習 | |

医学概論※	開講年次	1年生
2017/6/26	谷口【コミュニケーション】	一般的な意義、理論、技法、等を概説。ロールプレイでコミュニケーションの体験。コミュニケーションの持つ意味を議論し、コミュニケーション能力を向上させる方法を検討し合う。
2017/7/3	後藤【男女共同参画】	医師という職業の中で男女共同の仕事としてどの様な問題が存在するか議論。後藤理英子先生から一般的な現状・問題、考え方、近年の動向、等を概説。これからどの様な活動や考えを深めていくか検討。
2017/7/10	谷口【プロフェッショナルリズム・医師道とは】	医師にとってのプロフェッショナリズムとは何かを考察する。教員による概説の後、映像を視聴し、その後のグループディスカッションなどで更に議論し深める。
2017/7/24	谷口【喫煙と社会】	喫煙に関して現時点で、一個人として、一社会人として、一医学部生としてどの様に考えているかを述べ、それぞれが、他者との様に同じでどの様に異なるのか議論する。概説を元に考察し、今後喫煙問題にどの様に関わっていくべきか？の考えを述べる。

医学英語	開講年次	2年生
2017/12/20	佐土原【腫瘍医学】	腫瘍医学に関連し、遺伝性の乳癌の予防的乳房切除を題材に、EBMのステップを英語を使いながら体験してもらった。腫瘍医学の英語のキーワードを使って、文献検索、検索した英語の論文を読んでもらい、内容についてワークシートに記載して、一部発表してもらった。
2017/12/22	小山【プライマリケア】	医師役と患者役でスキッドを用意し、英語でロールプレイ。あるいは英語での医療面接の視聴覚教材を視聴し、その症例についての病歴を日本語にて作成する。

公衆衛生学	開講年次	3年生
2017/5/23	松井【疫学①】	疫学概念
2017/5/23	松井【疫学②】	診断、感度や特異度
2017/5/30	松井【疫学③】	予防、スクリーニング
2017/5/30	松井【疫学④】	EBM、診断ガイドライン
2017/6/30	谷口・中本【地域保健①】	地域医療行政（我が国と熊本県）
2017/6/30	田宮・安成【地域保健②】	病院でのチーム医療、病診連携、病病連携CGA（高齢者総合機能評価）について
2017/7/5	佐土原【地域保健③】	医療提供体制の現状とこれから
2017/7/5	小山・谷口【地域保健④】	総合診療と総合診療専門医制度
2017/7/5	高柳【地域保健⑤】	家庭医学とプライマリ・ケア
2017/7/5	前田・谷口【地域保健⑥】	へき地医療の対策と実際

総合診療学	開講年次	3年生
授業の目的：総合診療学の「臨床入門」の授業の一般学習目標GIO(General Instruction Objective)、診療参加型臨床実習を円滑に、実践的かつ効果的に行うために、学習方法についての知識を得て、実習に必要な基本的態度・習慣や技能を体験することにより、今後の学習へ動機を高める。 授業の概要：総合診療学の「臨床入門」の授業の個別学習目標SBO(Specific Behavioral Objectives)		
2017/4/18	谷口【医療のプロセス】	医療のプロセスを学び、その中で行われる医療面接について、講義、教材視聴、ロールプレイ等を行う。
2017/4/18	谷口【医療面接総論】	医療のプロセスを学び、その中で行われる医療面接について、講義、教材視聴、ロールプレイ等を行う。
2017/4/26	谷口【医療面接各論1】	模擬患者（SP）さんのご協力のもと、グループ毎に学生が交互に医師役、評価者役となって、互いに医療面接の美技を行い、その上で全員での振り返りを行う。
2017/4/26	谷口【医療面接各論2】	模擬患者（SP）さんのご協力のもと、グループ毎に学生が交互に医師役、評価者役となって、互いに医療面接の美技を行い、その上で全員での振り返りを行う。
2017/5/9	松井【身体診察概論】	身体診察の意義、および概略について学び、主な身体診察手技に関して、概説を行う。
2017/5/16	田宮【臨床推論概論】	臨床推論を行う上で、基本となる考え方や知識等について、概説を行う。
2017/5/23	佐土原【臨床推論演習1】	模擬症例に基づいた臨床ケーススタディを、グループ単位で行う。
2017/5/30	小山【臨床推論演習2】	模擬症例に基づいた臨床ケーススタディを、グループ単位で行う。
2017/6/6	高柳【臨床推論演習3】	模擬症例に基づいた臨床ケーススタディを、グループ単位で行う。
2017/6/13	前田【臨床推論演習4】	模擬症例に基づいた臨床ケーススタディを、グループ単位で行う。
2017/6/20	松井【総合診療概論】	総合診療とは？ これからの社会の中で、何が総合診療に求められているか等について、概説を行う。

医療と社会Ⅰ		開講年次	4年生
2017/6/12	後藤【男女共同参画】	医師の男女比の変遷や男女共同参画の流れ等について学び、社会および医療従事者のワークライフバランスについて認識し、考察を行う。また、社会の多様性への理解を深め、将来の医師としてのプロフェッショナリズムを形成する一助とする。	
2017/6/21	谷口【医療人類学】	医療人類学について講義を行い、医療が人類にどのように貢献し、今後発展していくかを考察する。	

チュートリアル実習		開講年次	4年生
2017/10/16	前田【第1週チュートリアル】	課題（シナリオ）に沿って問題抽出、自己学習、グループ発表、全体発表を行う。また課題に関連した講義・実習を受講する。	
2017/10/27	谷口【第2週チュートリアル】	課題（シナリオ）に沿って問題抽出、自己学習、グループ発表、全体発表を行う。また課題に関連した講義・実習を受講する。	

臨床実習入門		開講年次	4年生
2017/8/23 - 2017/9/15	松井・谷口・佐土原・前田【臨床実習入門1週目】	全体での授業。共用試験実施機構が定めたOSCEの学習・評価項目に加え、熊本大学での診療参加型臨床実習に必要な項目についても学習する。	
	松井・谷口・佐土原・前田【臨床実習入門2-3週目】	グループに分かれての実習。共用試験OSCEの学習・評価項目と熊本大学での診療参加型臨床実習に必要な項目について、実際に実技を行う。	
	松井・谷口・佐土原・前田【臨床実習入門4週目】	2日間にわたり病棟での看護実習を実施する。	

早期臨床体験実習Ⅰ		開講年次	1年生
早期臨床体験実習Ⅰは医学部学生を早期から実習に触れさせることを目的として、3年前に改正された新カリキュラムに基づき、必修科目としてⅠ～Ⅲで構成されています。 早期臨床体験実習Ⅰは1学年を対象とし、従来から実施していた「早期社会体験実習」の名称を変え、4回目の実施となった今年度は9月12日～15日の5日間に渡り実施しました。			
2017/9/11	松井・谷口【オリエンテーション】	オリエンテーションとスモールグループディスカッション	
2017/9/11	松井・谷口【オリエンテーション】	施設への移動と導入オリエンテーション	
2017/9/12 - 2017/9/15	松井・谷口【施設での実習】	実習先にてあらかじめ設定されたスケジュールで実習を行う。	
2017/9/28	松井・谷口【ECE1発表会1】	グループごとに実習についてスライドソフトと配布資料にてプレゼンテーションを行う。	
2017/10/5	松井・谷口【ECE1発表会2】	グループごとに実習についてスライドソフトと配布資料にてプレゼンテーションを行う。	

早期臨床体験実習Ⅱ		開講年次	1年生
早期臨床体験実習Ⅱは2学年を対象とし、今年度で3回目の実施となりました。実習先が熊本大学医学部附属病院に限定されているため、企画には携わりましたが、医学教育センターが主体で行われました。			
2018/1/12	谷口【オリエンテーション】	早期臨床体験実習2全般の説明	
2018/3/9	谷口【オリエンテーション】	受け入れ部署からの説明、実習の最終確認	
2018/3/12 - 2018/3/16	早期臨床体験実習2-5日目	学生を各診療科・各部署に配属し、各診療科・各部署が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。	

地域医療・総合診療実習学専攻講座

地域医療・総合診療実習学専攻講座

早期臨床体験実習Ⅲ		開講年次	1年生
早期臨床体験実習Ⅲは、3学年を対象とし、新カリキュラムにおける3年間にわたる早期臨床体験実習の総仕上げに当たるものであり、また、上位学年で実施される臨床実習への基礎入門編に位置付けられています。			
1	2017/10/18	松井・谷口・高柳【オリエンテーション】	実習の説明、実習先振り分けなど
2	2017/12/4	松井・谷口・高柳【導入グループワーク】	午前中は講義室に集まり、グループワークで実習前のグループディスカッションを行う。
3-7	2017/12/4 - 2017/12/8	松井・谷口・高柳【学外実習】	各実習施設にて見学実習を行う。
8	2017/12/8	松井・谷口・高柳【振り返りグループワーク】	午後大学の講義室に再度集まり、実習の報告を兼ねた振り返りを行う。

▶ ガイドブックについて

医学部3年生を対象に、2016年度から早期臨床体験実習3(ECE3)を開始したが、初年度と言う事もあり、実習指導に戸惑われた指導医の先生方もおられた様にお聴きしました。実習に先立ち、昨年度、本年度と複数回の実習説明会を開催しておりますが、それを元に、ECE3の実習ガイドブックを作成しましたので、講習会と合わせて、実習ご指導に少しでもお役に立てるならば幸いです。

